

好評発売中!

ご注文は JRC へ FAX 03-3294-2177



キネマの玉手箱 大林宣彦

キネマの玉手箱 大林宣彦 著

[既刊] ISBN 978-4-9911368-0-1 四六判 / ソフトカバー 定価：本体 1,500 円 + 税

静かに広まる大林宣彦監督のメッセージ

尾道新聞 (4/28)

温かい未来への言葉が詰まっています。



余命半年を宣言された映画作家の人生哲理

是枝裕和 あれから三十年、僕はずっと大林マジックにかかっているのかも知れません。

日本の映画界に輝かしい功績を残し、4月10日に逝去された映画作家・大林宣彦氏の未来に託すラストメッセージ集です。

概要

- ◆生命の章 病と闘う者として
- ◆虚実の章 自主映画の作家として
- ◆非戦の章 敗戦国の軍国少年として
- ◆未来の章 未来を生きる人として

- *特選クラシックシネマ 15 選
- *装画：森泉岳土
- *あとがき：是枝裕和

著書「キネマの玉手箱」発刊
大林監督ラストメッセージを

今月10日に出版された映画作家・大林宣彦監督の最後の著書「キネマの玉手箱」が25日、ユニコ舎・東京都世田谷区から発売され、全国の書店に並びました。監督のラストメッセージが綴られた。

「僕のフィロソフィーを表現した僕の映画は僕のもの、そして僕の分身である僕の作品は永遠に生き続けるのだ」と語っている。『刀引き家』の尾枝裕和監督が「あつと大林マジックにかかっているのかも知れません」と話しています。『魔術師』の章、非戦の章、最後の章は僕の人生そのもの、道市をひとり旅して、子さんの平川智恵郎の世界に浸るため、大林監督の生家や幼少期に描いた絵などを取材し、あつと監督から三十年、僕はあつとのお届け出来るはずでした。温かい未来への言葉が詰まっています。『魔術師』

生命の章から虚実の章、最後の章で監督は「映画の章、非戦の章、最後の章は僕の人生そのもの、道市をひとり旅して、子さんの平川智恵郎の世界に浸るため、大林監督の生家や幼少期に描いた絵などを取材し、あつと監督から三十年、僕はあつとのお届け出来るはずでした。温かい未来への言葉が詰まっています。『魔術師』」と話しています。

ぴあアプリ版
「植草信和映画は本も面白い」(5/10)
やはり大林さんは亡くなくてもなお、〈魔術師〉だった。

『キネマの玉手箱』(大林宣彦著/ユニコ舎・1,500円+税)

四回、「最後の講演全文」を「大林監督の最後の著書」と紹介したのだが、それは足りなかった。訂正してあげよう。

同書が発売されたのは3月3日、大林監督が逝去したのは4月10日だから、少しの遅れも仕方ない「遅刊」と思い込んでしまった。しかし定価1500円の4月22日に、「著書」の扉が発表された『キネマの玉手箱』が発売。本書が真正正銘の「最後の著書」であることが判明したという次第。

評論によって「死後の書」は生まれて初めて、やはり大林さんは亡くなくてもなお、〈魔術師〉だった。

さて、大林さんの晩年である森泉岳土氏が書いたカバー・イラスト(表紙)のこの著書が、「生命の章」「虚実の章」「非戦の章」「未来の章」の4巻から成っている。その巻と巻との間に、2009年からガイドを始めたC5「植草信和」の『大洲軍部のいつか見た戦艦』で取り上げた15作品の解説が挿入された。「映画にかえて」として是枝裕和監督のエッセイが収められている。

『映画のステージ』は、余命半年という診断を受けた日から、余命半年を大艦に乗り出した約三年後の二〇一九年八月二十一日、彼の最終作『海辺の伊豆屋〜キネマの玉手箱』の絵巻が挿入された。という書き出しから、本書が亡くなる10ヶ月前から書き進められていたことが分かる。

そこには「誰は人を殺さない」「せつなく殺したのだから後悔をしない」「他殺者といふ者から他殺者」「死んでセマでない」など、余命半年を宣告された人とは思えない程の多様な文章が展開している。信じられない力強い言葉、あの種やかで優しい人柄のどこにこのようなエネルギーが隠されていたのだからと驚く。

執筆した著者、植草信和、望みだった22日、山田洋次、佐々木康らとの交流も綴られている。それら全ての文章に共通しているのは「友枝裕和監督大林宣彦の(人生哲理)」だ。「映画は僕の人生そのもので、僕のフィロソフィーを表現した僕の映画は僕のもの。そして僕の分身である僕の作品は永遠に生き続けるのだ」と綴られる本書を眺め、「戦と非戦」を突き詰めようとした大林さんの生涯が深く得心できる。

これが真正正銘「大林監督の最後の著書」ほか
毎月連載 第40回 20/5/10(日)

番線印	ご担当	ご注文	発行：ユニコ舎
			キネマの玉手箱 大林宣彦 著 定価：本体 1,500 円 + 税 [既刊] ISBN 978-4-9911368-0-1 四六判 / ソフトカバー 206 頁 (本体)
	様	冊	

株式会社 JRC 経由で、すべての取次への出荷が可能です。返品は長期に承ります
発行：株式会社ユニコ舎 TEL：03-6670-7340 FAX：03-4296-6819 東京都世田谷区船橋 2-19-10 ポー・プラージュ 2-101

詳しくはユニコ舎へ

キネマの玉手箱 大林宣彦 著

【既刊】ISBN 978-4-9911368-0-1 四六判 / ソフトカバー 定価：本体 1,500 円 + 税

静かに広まる大林監督のメッセージ

尾道新聞 (4/28)

温かい未来への言葉が
詰まっています。

著書「キネマの玉手箱」発刊
大林監督ラストメッセージを



今月10日に立った映画家・大林宣彦監督の最後の著書『キネマの玉手箱』が25日、ユニコ舎（東京都世谷区）から発売され、全国の書店に並びました。監督のラストメッセージが綴られた、生命の章から虚実の章、非戦の章、最後の章は僕の人生そのもの。



余命半年を宣言された
映画作家の人生哲理

見上げれば、空に三本の虹がかかっていた。一本の虹ならよく見るけれど、三本の虹なんてそう滅多にお目にかかれるものではない。人生最高の虹。とてもいいことがありそうだという予感がした。

是枝裕和「あれから三十年、僕はずっと大林マジックにかかっているのかも知れません。卒業して入学の季節に 定価：本体1500円+税 ユニコ舎

日本の映画界に輝かしい功績を残し、4月10日に逝去された映画作家・大林宣彦氏の未来に託すラストメッセージ集です。

概要

- ◆生命の章
病と闘う者として
- ◆虚実の章
自主映画の作家として
- ◆非戦の章
敗戦国の軍国少年として
- ◆未来の章
未来を生きる人として

- *特選クラシックシネマ 15 選
- *装画：森泉岳土
- *あとがき：是枝裕和

ぴあアプリ版

「植草信和 映画は本も面白い」(5/10)

やはり大林さんは亡くなくてもなお、
〈魔術師〉だった。

植草信和 著
植草信和 映画は本も面白い
これが真正正銘“大林監督の最後の著書”ほか
毎月連載 第40回 20/5/10(日)

『キネマの玉手箱』 [大林宣彦著/ユニコ舎・1,500円+税]

前日、「最後の遺稿完全版」を「大林監督の最後の著書」と紹介したのだが、それは誤りだった。訂正してお詫言いたい。

本書が発売されたのは3月31日。大林監督が逝去したのは4月10日だから、少しの遅れも指かず“遺稿”と用い込んでしまった。しかし没後12日後の4月22日に、「著者遺言」の扉が挟まれた『キネマの玉手箱』が書き、本書が真正正銘の“最後の著書”であることが判明したという次第。

評者にとって「死者からの遺言」は生まれて初めての体験。やはり大林さんは亡くなくてもなお、〈魔術師〉だった。

さて、大林さんの映画である森泉岳土氏が描いたカバー・イラスト（遺稿）のこの遺著だが、「生命の章」「虚実の章」「非戦の章」「未来の章」の4章から成っている。その章と章との間に、2009年からガイドを始めたCS「衛星劇場」の『大林宣彦のいつか見た映画室』で取り上げた稀作品の解説原稿が導入され、「後書きにかえて」として是枝裕和監督のエッセイが収められている。

『映画のステージ4。余命半年という診断を受けた日から、余命半年を大膽に語り誌した約三年後の二〇一九年六月二十一日。僕の最新作『最初の映画館—キネマの玉手箱』の初号試写が行われた。という書き出しから、本書がなくなる10ヶ月から書

株式会社

ユニコ舎

https://unico.press

TEL：03-6670-7340

FAX：03-4296-6819

E-MAIL：info@unico.press